

巻 頭 言

2020年度を迎えて(雑感)

一般社団法人群馬県作業療法士会 会長  
新井健五

唐突だが、20年後、あなたは何の職業に就いているだろうか？

作業療法士会の会長が作業療法士である会員に何をそんな当たり前なことを聞くのかと不思議に思われたことだろう。でも、あなたが当たり前と思っていることは、20年後、本当に当たり前なこととなっているのだろうか？

ことさらに20年後を強調してはしまったものの、今この時点でもう作業療法士(有資格者)が作業療法士という職業に就くことが当たり前とは言えなくなる時代が始まりつつあることをご存じだろうか。厚労省の「理学療法士・作業療法士需給分科会」の報告では、既に現時点で療法士(作業療法士+理学療法士)の供給数は需要数を上回っており、20年後の2040年には、供給数が需要数の約1.5倍にもなることが推計されているのだ(理学療法士:1.6倍、作業療法士1.3倍)。2040年にはわが国の療法士供給数は45万人を超えると推計されていることから考えれば、なんと15万人もの療法士が資格を持ちながらもその職に就いていないことになる。あなたが20年後、作業療法士という職業に就いている(就けている)かどうかは、じつは当たり前なことではないのだ。そういえば、療法士の平均年収が年々減少し続けているらしい。需要に対して供給が増加すると、相対的に供給物の価値は低下するというのは経済学のイロハのイであるが、まさにそれが起こっているのだ。これも、この事態の現実性を物語っているものだといえよう。

こんな話を聞くと、「せっかく資格を取ったのに」と将来に不安を抱えてしまう人も多いだろう。しかし、他の業界を見れば、供給数が需要数を上回っている専門資格職種はいくらでもあるわけで、その中にあって、当然のことながら職を失っていく人もいれば、逆に高い収入を得ている人もいるわけである。仕事の質を向上させ、社会や顧客(対象者)からのニーズを的確にとらえて今やるべきことをしっかりと実施できる人は地位を高めて生き残れるが、そうできない人は職を失っていく。これは、じつのところ、社会にあってはごく普通の(当たりの)ことなのだ。これまで、その希少性から、存在することだけで価値を認めてもらえたが、これからは、存在が試される(当たりの)時代が来るということだ。今、われわれはどこにいて、これからどこに行くのか、今どういう状況で、今そしてこれから何が求められていくのかを個々がしっかりと自分で考え、行動するようにならなければいけないのである。

供給が需要を上回る時の最も安易で効果の確実な解決方法は、新たな供給を減らすことだ。しかし、文科省の告示によって入学定員数を決められる医師と違って、療法士の場合、国として入学定員数や学校数を減らすことはできない。ならばと、国家試験の合格率を下げるという方法も検討されているようだが、毎年これに翻弄されることになる学校や学生のことを考えればとてもできないだろう。そもそも、ハードルが上がれば、結果、目指す若者も減ってしまうことは避けられず、1人でも多くの若者に作業療法士を目指してほしいと願っている筆者的には、裾野を狭めてしまうこの短絡的な方法はくれぐれもやってほしくない。新たな供給量を減らすことだけをもって需給調整をしようとする方法は、職種としての先細りを招くだけだと思うのである。

われわれは豊作過ぎて値崩れしそうになっているキャベツではないのだ。新たな供給の調整だけでなく、既存の供給の中で、質の面からの“淘汰”という供給調整も起きてくるのがじつは自然なことなのかもしれないということを認識すべきだろう。

現実的に考えれば、需給調整は必要であることは事実である。その時に、供給を減らす論議だけでなく、需要を増やすこともわれわれは考えていくべきなのではないかと思っている。保険の中だけでしか生きていけない状況から、保険外のところでも生きていけるようになった方がいいのではないのか。例えば、健康産業、職業センター、リハ関連企業、一般企業、福祉用具作成企業、介護サービス企業等々といったところで活躍する者がもっと増えてもよいのではないか。ちなみに、こうした保険外の分野に従事する療法士の数を調べてみると、理学療法士は作業療法士の10倍もの数が従事していることがわかる。理学療法士の数、作業療法士の数の約1.7倍程度であることを考えると、いかに理学療法士が保険外の予防や健康増進の分野に目を向けて活躍の場を広げ、需要を増やしていこうとしているかが見て取れる。あくまで私見だが、筆者はむしろ作業療法士の方が保険外の分野へ出ていきやすい職能上の特質を持っていると思うのだが皆さんはいかがだろうか。

自分の20年後。ぜひ思い描いてみてほしいものである。



## 仕事も遊びも大切にしたい方!!

### 勤務地・仕事内容

前橋・高崎・渋川・伊勢崎エリア  
訪問看護ステーションからのリハビリ業務

### 勤務形態／勤務時間

- 正社員／8:30～17:30
- 準社員／8:30～17:30のうち4.5時間以上  
小学校卒業までの子を持つ親または  
同居家族の介護を行っている場合
- パート／8:30～17:30のうち3時間以上

### 給 与

基本給＋資格手当＋実績手当  
260,000円～（準社員・パートは勤務時間により変動）  
経験考慮いたします

### 休日・休暇

- 年間120日以上
- 土・日・祝日（成人の日は除く）
- 夏期休暇、年末年始
- 特別検診等休暇、参観休暇、介護楽しんで休暇、  
パパ産休などの独自の特別有給休暇

### 待遇・福利厚生

- 各種保険加入 ■退職金制度
- 賞与年2回（昨年度実績）
- 研修参加補助金制度
- マンツーマン指導あり

働き方改革への先進的な取り組みで  
国や県からの受賞多数。

●お問い合わせ先

ココロ

Coco-Lo

<http://coco-lo.net/>



〒376-0011

群馬県桐生市相生町2丁目261-3

☎0277-55-5422 担当：しかぎ

受付時間／8:00～17:30（土・日・祝休）

ぜひ一度  
弊社ホームページを  
ご覧ください！

COCO-LO

検索

# 群馬県作業療法士会 2019年度 第5回理事会

日 時：令和2年1月22日(水) 19:00～21:00

会 場：群馬医療福祉大学 前橋キャンパス  
K' BIX元気21まえばし内6階 104教室

参加者：新井、関根、唐沢、高坂、山口、柴田、山浦、都丸、小此木、小林、勝野、今村、村井、市川、高橋 計15名

## I.各部議事

### 1.地域作業療法推進部[報告者:高坂]

#### 【報告事項】

##### 1)地域包括ケア推進グループ

- 以下の通り、日本作業療法士協会主催「地域ケア会議および介護予防・日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会」の伝達研修を企画している。

令和2年3月15日(日)9:00～12:30 場所未定

講師：真塩敦士氏(認定NPO法人じゃんけんぽん)、小澤貴明氏(公立七日市病院)、清水順市氏(東京家政大学)、新泉一美氏(多摩リハビリテーション学院専門学)

- 日本作業療法士協会地域包括ケアシステム推進委員会との連携をとりながら、県内における各市町村の地域支援事業におけるOTニーズの創出・拡大、人材育成および活用に資する具体的な事業計画の立案等について進めていく。

##### 2)認知症支援推進グループ

- 「認知症ケア資質向上のための研修会」の講師および内容が確定したため、チラシを作成した。参加者募集の広報活動として、事業所へのチラシの送付、県士会HPへの掲載依頼、他団体HPへの掲載依頼、県士会ブロックメーリングリストでのチラシデータの配信依頼などを行った。

〈他団体〉

- ・群馬県看護師協会
- ・群馬県言語聴覚士会
- ・群馬県地域包括・在宅介護支援センター協議会
- ・群馬県老人福祉施設協議会
- ・群馬県介護支援専門員協会

- 「認知症ケア資質向上のための研修会」の後援依頼を群馬県に申請し、承諾を得た。
- 「認知症ケア資質向上のための研修会」の参加者募集を開始した。
- 「認知症ケア資質向上のための研修会」の講義資料の印刷作業に向けて、講師陣と講義内容について連絡調整をしている。
- 令和元年度11月9～10日 TKP築地新富町カンファレンスセンターで開催された認知症作業療法推進委員会会議へ宮寺グループ長と廣崎推進委員が参加し、認知症の人の支援について全国の士会委員と意見交換を行った。

##### 3)精神科領域推進グループ長

- 令和元年度自殺対策強化事業支援者向け普及啓発事業(研修会)を開催した。作業療法士、教員、当事者・家族等101名の参加があった。
- 以下の通り、作業療法士のための情報交歓会を企画している。  
精神科作業療法士の妙技～作業活動を通したクライアント評価～  
日時：令和2年1月24日(金) 19:00～20:30 群馬医療福祉大学
- 令和2年度のドリームバスケットボールキャラバンの開催協力の依頼があった。
- 県の障害政策課精神保健室よりHP掲載用自殺対策支援情報データの提示依頼があり、2月3日までに当グループが取り組む事業内容を送付予定。

##### 4)発達支援推進グループ[報告者:勝野]

- 保育士・幼稚園教諭・特別支援コーディネーター等対象の研修

会を11月10日(日)14:00～16:00前橋市第一コミュニティセンターにおいて開催した。事前申し込みが61名あったが、会場規模の都合上人数制限を行ない、当日参加者は48名であった。その半数以上が保育士であった。スタッフは27名(オブザーバー3名含め)であり、講義とグループワーク実技による研修を行った。アンケート結果は集計中であるが、おおむね好評であり次年度の開催を希望する声が多かった。今後の定期勉強会において、次年度の企画を検討していく。

- 11月15日(金)に群馬県教育委員会の外部専門アドバイザー研修に六本木が講師を行った。群馬県理学療法士会から小川氏、群馬県言語聴覚士会からは峯岸氏が講師として招聘され、各士会より今年度の実施状況および支援事例を通して各職種の専門性について説明を行った。

- 令和2年1月23日(木) 19:00～定期勉強会をanomiraで開催予定。

【審議事項】 なし

### 2.養成校連絡協議会[報告者:高坂]

#### 【報告事項】

- 令和元年度臨床実習指導者講習会(都道府県講習会)について  
1.現在、参加者の募集(100名)を終え、日本作業療法士協会へ参加者名簿を提出した。
- 参加者及び講師用講習会資料が送付されてきた。修了証は講習会7～1日前の到着となる予定である。
- 今後の予定として、講師及び参加者向け公文書(資料1・2)の発行、講習会資料代金(100,000円)の振込は事務局に依頼する。
- 令和2年度の学生交流会の開催について  
令和2年4月19日(日)の新人症例発表会に合わせて学生交流会を企画している。
- 臨床実習に関する学生アンケートの実施について  
臨床実習の状況等について、2月中旬までに学生向けアンケートを実施する。昨年度との結果比較により今後の実施頻度を検討していく。

#### 【審議事項】

- 今年度の臨床実習指導者講習会(都道府県講習会)に関して、会長名義で施設長宛の「講習会出張のお願い」について公文書を発行したい(別添資料1・2)。また、次年度以降の講習会でも同様の内容で公文書を発行したい。→承認  
また次年度は2回を予定している。1回目8月～9月、2回目2月～3月

### 3.学術部[報告者:村井]

#### 【報告事項】

##### 1)学術部

- 県士会における学術支援活動を行なった。
- 第22回／第23回 群馬県作業療法学会の運営支援を行った。
- 第22回 群馬県作業療法学会終了後、実行委員向けアンケートを実施した。

##### 2)学術研究グループ

#### 【報告事項】

- 県学会のポスター作成支援を5名の会員に実施した。
- 日本作業療法研究学会の発表者のポスター支援を2名の会員に実施した。
- 学術研究グループの支援を12月に実施した。(参加者は10名、OT学会発表予定者7名)
- 学会支援グループ

【報告事項】

1. 第22回群馬県作業療法学会の開催に向けて財務管理を行った。
2. 第23回群馬県作業療法学会開催へ向けた役員の引継ぎ会を開催予定である。
- 4) 機関誌編集グループ

【報告事項】

1. 第22回群馬県作業療法学会実行委員会に参加した。
2. 機関誌・学会誌を発刊した。
3. 2020年度機関誌の投稿論文募集継続中。現時点で2稿投稿あり。編集会議を開催し、査読業務を開始する予定。

【審議事項】 なし

4. 運転と作業療法特設委員会[報告者:村井]

【報告事項】

- 1) 2019年12月7日に第7回ぐんま自動車運転リハビリテーション研究会研修会を実施した。
- 2) 2019年12月7日に「運転と作業療法特設委員会都道府県士会協力者会議」に参加した。
- 3) 2019年12月9日に第3回教習所交流会を実施した。
- 4) 2020年6月頃に第8回ぐんま自動車運転リハビリテーション研究会研修会を実施予定。

【審議事項】 なし

5. 広報部[報告者:都丸]

【報告事項】

- 1) 公益事業グループ
  1. 今年度は作業療法フェスタではなく、2月11日にイオン様とコラボレーション企画を実施予定。年度末にグループ会議を実施予定。
  2. 県士会リーフレット改訂に向けて意見集約を実施中。今年度中の改訂を目指して作業を進めています。
- 2) ニュース編集グループ
  1. 今年度最終となる1月号が印刷会社さまへ依頼済み。発行は15日移行。今年度のニュース発行についてはスケジュール通り進めることができました。ご協力ありがとうございました。
  2. 部の会議として、病院、施設間の距離が離れているためグループ員が直接集まりにくく、メール会議等検討工夫しています。
  3. 次回は新年度4月号の発行予定。巻頭言の依頼先等で難渋すること多く、会員皆さまへの積極的な協力を今後もよりしくお願いします。
- 3) 広報企画グループ
  1. 県士会リーフレットの改定に向けて業者に対して必要な情報収集を適時、行っている。広報部内のグループと協力し情報収集を行っている。

【審議事項】なし

6. 西毛ブロック支部[報告者:山浦]

【報告事項】

- 1) 第22回群馬県作業療法学会  
開催日時:2019年12月8日(日) 場所:高崎市総合福祉センター  
参加者数:271名  
内訳 ①県士会員(実行委員含む) 162名 ②講師・座長・発表者 41名 ③非会員 1名 ④他職種・一般・OTS・学生 87名
- 2) 西毛ブロック主任代表者会議開催予定について  
開催日時:令和2年2月予定  
内容:①今年度の活動報告、②来年度の活動予定について、③各施設連絡先の確認 等

【審議事項】

- 1) 関連団体による研修会の案内方法について  
他団体からの研修案内については、ブロック支部長が判断し、県士会として共有するべき内容の場合、事務局に研修案内としてHP

掲載依頼としてよいか。 →承認

- 2) 主任者連絡先の変更後の対応について

主任者連絡先の変更についてブロック支部に連絡があった場合、県士会事務局への連絡方法とタイミングについて協議お願いします。 →随時、メールで事務局長へ連絡。

7. 東毛ブロック支部[報告者:村井]

【報告事項】

- 1) 地域作業療法推進部よりの依頼  
認知症資質向上研修の案内をブロック支部より、東毛ブロックメーリングリストの施設へメールにて情報共有を行った。
- 2) 第23回群馬県作業療法学会について  
日時:2020年12月 学会長:村井達彦 実行委員長:今村雄二  
場所:検討中  
テーマ:生命をつなぐ作業療法 ～臨床と研究の最前線～

【審議事項】なし

8. 北中毛ブロック支部[報告者:小此木]

【報告事項】

- 1) 令和1年 ブロック会議の開催  
日時:令和1年11月26日 場所:群馬大学 3番教室  
参加施設:15施設  
内容  
○日本作業療法士協会登録情報更新について  
○2021年度 群馬県作業療法学会、北関東信越ブロック学会について  
○2019年度 群馬県作業療法学会の案内  
○懇親会開催に向けた協議  
○臨床実習指導者講習会の案内  
○各地域の活動報告
  - 2) 地域作業療法推進部より依頼  
認知症資質向上研修会の案内をメーリングリストより連絡しました。
  - 3) 令和1年度懇親会  
日時:未定 場所:前橋市駅周辺 内容○つながり作り
- 【審議事項】なし

9. 教育部[報告者:勝野]

【報告事項】

- 1) 会議 ブロック長会議 1月28日 第一病院で開催予定  
検討内容・研修会進捗状況報告  
・新人症例発表会のセッション分け、座長選出など  
・来年度からのPC導入について 作業確認  
・次次年度生涯教育制度推進担当者、次年度生涯教育SG長の検討。
- 2) 研修会報告  
現職者選択研修【老年期障害の作業療法】  
日時:令和2年1月12日(水) 9:30～16:40  
会場:群馬医療福祉大学  
講師:梓田敦子OTR、土屋謙仕OTR、小池岳大OTR、石森卓矢OTR  
会員:35名 非会員:0名  
収入:¥140,000 支出:¥44,965
- 3) その他  
新人症例発表会の詳細  
日時:2020年4月19日 9:30～16:00  
場所:群馬県立心臓血管センター  
締切:①参加申し込み締め切り 2019年11月27日  
②査読希望者の抄録提出締め切り 2019年12月18日  
③抄録・同意書の提出締め切り 2020年1月22日  
④スライドデータの提出締め切り 2020年2月26日  
申込者:45名(北中毛19名、東毛16名、北毛10名)

【確認事項】



## 会員の学術活動支援企画

### 【目的】

日々の臨床で感じる疑問を①具体化、言語化し、②学術研究に適した研究デザインを構築、③正しい統計処理を実施、④学術発表の場で発表できる能力を備えた会員を育成する。

### 【対象】

学会発表、学術論文作成に関心のある会員10名(OT学会だけではなく他の学会にも対応します)

### 【スケジュール】

7～2月:月1回の勉強会(全日程の参加を原則とし、日時は参加者決定後に調整)

会場:群馬大学 時間19:30~21:00

(翌年)7～8月:学会発表前の原稿作成

|          | OT学会 | 一般的応募スケジュール | 当勉強会              |
|----------|------|-------------|-------------------|
| 2020年 7月 |      | テーマの検討      | アイデアの具体化          |
| 8月       |      |             | 〃                 |
| 9月       |      |             | 「文献検索」解説          |
| 10月      |      | 発表内容の検討     | データ収集             |
| 11月      |      |             | 〃                 |
| 12月      |      |             | 「統計ソフト(SPSS)使用」解説 |
| 2021年 1月 | 演題応募 | 演題原稿作成・応募   | 「演題登録原稿作成」解説      |
| 2月       | 演題応募 |             | 〃                 |
| 3月       |      |             |                   |
| 4月       |      |             |                   |
| 5月       | 結果通知 |             |                   |
| 6月       |      |             |                   |
| 7月       |      | 発表原稿作成      | 発表原稿作成            |
| 8月       |      |             | 〃                 |
| 9月       | 発表学会 |             |                   |

### 【支援実績】

日本作業療学会  
日本リハビリテーション医学会学術集会  
日本緩和医療学会  
日本作業療法研究学会  
群馬県作業療学会

### 【担当者】

学術研究グループ 近藤健(群馬大学)、李範爽(群馬大学)  
連絡先:kenkondoot@gmail.com

※学術活動に関わる相談も随時受け付けています。

## ダブル受賞!!

群馬県作業療法学会において、優秀演題賞、学術奨励賞として、小林昭博氏が選出され表彰されました。優秀演題賞は、群馬県作業療法学会の学術的意義を高め、群馬県作業療法士会員の臨床業務や研究への意欲の向上、促進することを目的として、本学会の口述演題から、特に優秀な演題の筆頭演者に授与されます。

学術優秀賞は、機関誌「ぐんま作業療法研究」の学術的意義を高め、臨床業務や研究への意欲の向上、促進を図ることを目的とし、機関誌「ぐんま作業療法研究」掲載論文のうち、最も優れた論文の筆頭著者に授与されます。

受賞した小林先生にコメントを頂きましたので掲載させていただきます。

### 第22回群馬県作業療法学会において優秀演題賞、 ぐんま作業療法研究において学術奨励賞を頂いて

医療法人社団日高会日高病院リハビリテーションセンター 回復期リハビリ室  
作業療法士 小林 昭博

この度、私は第22回群馬県作業療法学会において優秀演題賞、学術誌ぐんま作業療法研究において学術奨励賞を頂きました。作業療法士として働いて20年目の節目にこのような賞を頂くことが出来たこと、深く感謝いたします。

私は数年前から作業療法士の役割について考えてきました。理学療法士との違いは何か、作業療法士のアイデンティティとは何かを真剣に考えてきました。その中である先生が「作業療法士は作業（人々ができるようになりたいこと、出来る必要があること、出来ることが期待されていることなど、個別的な目的や価値を含む）に焦点を当て、作業で評価、治療、介入を行い、効率良く作業の可能化を支援することが作業療法士の専門性、特有性である」ということを語られており、自分もそうであると思うようになりました。それからは作業に焦点を当てたアプローチを中心に日々臨床を行なっています。その効果を今回のような症例発表を通じて検証させて頂きました。

作業療法士は健康関連職種です。人が元気になっていく過程に寄り添えるなんて本当に良い仕事だと思います。現在は管理職としても働いていますが、20年間の中で臨床は今が一番楽しいです。コツコツと楽しく臨床し、学術活動に取り組んでいたらそのご褒美として今回の賞を頂いたのかなと思っています。これからも作業に焦点を当てたアプローチを実践し、学術活動を通じて微力ながら作業療法の発展に貢献していきたいと思っています。

# 地域の企業様とのコラボレーション

## 『イオンモール高崎 × 群馬県作業療法士会』

広報部 担当理事 都丸 直樹  
ニュース編集 反町 拓海

2月に広報部としてイオンモール高崎様で「イオンモールウォーキング」に参加させていただきました。この「イオンモールウォーキング」はイオンモール株式会社がコンセプトとして「お買い物ついでに気軽にウォーキングをしよう」と取り組む健康増進へのプロジェクトです。毎週火曜日をイオンモールウォーキングの日とし、その中で毎月講師を迎えての運動教室を開催しています。

今回はその運動教室に加えて「作業療法士からの視点」を取り入れたコラボイベントをセントラルコートで開催しました。「ながらウォーキングで脳活性化」と題し、当会広報部員が講師を務めました。コグニサイズ、フレイルを中心としたミニ講義のあとにモール内のウォーキングコースを計算や色を数えながら実際に回り、ゲーム感覚で楽しみながらデュアルタスクを実践していただきました。モール内でのウォーキングは、運動だけでなく店員や友人とのコミュニケーション、外出や買い物など役割の実践や社会的活動の継続を行うためにとても有効と考えます。実際参加された方々は既に常連の方が多く、ウォーキングを通してのコミュニティーができており、こちらで用意した内容への感想や物足りなさを話している場面もありました。

これまで、当会広報部はイオンモール高崎様にご協力いただき「OTフェスタ」として広報イベントを開催してきました。今回はさらに、イオンモールウォーキングのパンフレットに「作業療法士の視点でのポイント」などを掲載していただくなど、地域住民への健康増進の啓発活動に取り組んでいます。これからも多世代の住民の方はもちろん、地域を支える企業・団体とも協同しより身近な「作業療法」を知っていただく機会を模索していきたいと思います。



イオンモール高崎様と群馬県作業療法士会がコラボした  
『イオンモールウォーキング』のリーフレットはこちらでチェックしてみてください



イオン高崎 イオンモールウォーキング で検索!



## 西吾妻福祉病院

浅間白根を仰ぎ見て… 西吾妻福祉病院の歌はこんな言葉で始まります。病院への坂を上ると南側に浅間山が凜とそびえています。正面入り口を通過し職員の駐車場へまわるとヘリポートが見え白根山が見守っています。昨年の大型台風で満水になり話題になったハッ場ダムのある長野原町に病院は建っています。少し車で登れば草津の温泉街があります。本白根山が噴火し当院にもスキー場の被災者が搬送されたのはもう2年前のことです。西にはキャベツで有名な嬬恋村があります。台風では大きな被害があり復旧が待たれております。中之条町の旧六合地域にもほど近いところで六合温泉医療センターとはリハビリに限らず職員の行き来がありました。自然が豊かで夏は涼しく野菜が美味しい一方で災害と隣り合わせであり冬は大変厳しいですが春の訪れがことのほか嬉しく感じる所です。令和2年2月で18歳の誕生日を迎えました。



この地域でリハビリが行える病院としては唯一になりますので様々なニーズに応えていかねばなりません。当初自治医大附属病院からの派遣のOT1名とPT2名で始めました。今ではOTは6人に仲間が増えました。御覧の通り男性の比率が高いのですが男性が働きやすい職場なのかどうか筆者には判断しかねます。地元出身者は1名のみでほとんどが他県出身者です。短時間デイケアもOTが中心となって開始し軌道に乗ってきたところです。デイケアに現在兼任も含めて3名のOTが配置されており生活に根差したりハビリを展開しております。2名は半日ずつ訪問リハビリにも出て活躍しております。ほとんどのOTがなんらかの形で院外に出て患者さんのお宅に伺い生活の場を見せて頂きながら日々のリハビリを行っています。雪道の運転は皆得意になりました。令和元年度にはモジュール型の車椅子を導入しOTが中心になって運用しております。

実り豊かで厳しい自然の中研鑽を積んでまいります。新しい仲間も募集中です。



# 投稿大募集!!

ニュースでは、日頃感じている些細な疑問や  
日常業務で工夫している点、こんな研修会に  
参加した・・・などなど、皆様からの投稿を  
募集しております。  
どんなことでも構いませんので、  
お気軽にお寄せ下さい。お待ちしております!!

アドレス：dc\_nanohana@yahoo.co.jp  
広報部・ニュース編集グループ  
反町拓海

県士会ホームページアドレス

<http://www.gunma-ot.org/>



## 編集後記

新型コロナウイルスによる影響が県内でも見られるようになり、当たり前だった生活が一変してしまったように感じる。友人と会ったり、旅行や嗜好に没頭することができない、業務がままならない等、まさに“作業”が奪われ、“生活”に影響が出ている状態だ。陰に隠れてしまったが、診療報酬の改定があり、私の勤める精神科領域も重要な局面を迎えている。そんな情勢等も踏まえて新井会長に執筆頂いた巻頭言を拝読すると、視野が広がり不安感とともにとても深く考えさせられる。皆さまはどうだろうか？今現在の状況もそうだが、安心できる未来は約束されていない中、何をすべきかを考えていく必要があるのではないだろうか。

次号は7月を予定しています。今年度もたくさんのご協力をお願い致します。

S

## 群馬県作業療法士会ニュース

発行者 || 新井 健五

発行所 || 群馬県作業療法士会事務局 〒371-0024 前橋市紅雲町1丁目7番12号 TEL・FAX 027-224-4649

編集代表 || 反町 拓海 編集委員 || 関 仁紀、下田 幸、辻 千鶴子、大脇 宗雅 印刷 || 星野印刷株式会社